

2020. 8. 01

歴史民俗資料館だより No.135

長崎市歴史民俗資料館

〒852-8117 長崎市平野町7番8号

TEL (095) 847-9245 (FAX 兼用)

<http://www.city.nagasaki.lg.jp/kanko/820000/828000/p009251.html>

くunchi資料展

会 期 8月20日(木)～10月11日(日)

展示品 全踊り町の手ぬぐい・踊り町の
扇子、呈上札など 約 200点



諏訪神社扇子

玉園山人天堂書 (昭和時代) 個人蔵

寛永 11 (1634) 年に長崎諏訪神社の秋の大祭「くunchi」が始まり、今年で 386 年となります。

長年の間に、江戸時代の大火災、昭和の戦災や大水害、そして町名変更などをへて、時代と共に 7 年に 1 度出演する踊町の数や組合せ、演(だ)し物の多くが変化してきました。

しかし、今年の「長崎くunchi」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、残念ながら中止となりました。

そこで、今回の企画展は来年の「長崎くunchi」に向けて、これまでくunchiに使用されてきた各踊町の手ぬぐいを中心に、「長崎くunchi」の魅力を紹介する内容といたしました。

今回の展示に際しまして、油屋町前会長、野口哲男様をはじめとして、各踊町の皆様方には大変お世話になり深く御礼申し上げます。



諏訪大明神尊号

正二位権中納言難波宗弘書

文久 2 (1862) 年頃 個人蔵

諏訪神社

諏訪神社は長崎の氏神様として尊崇されてきました。その御祭神は、諏訪大神、森崎大神、住吉(住江)大神で、御紋の梶の葉、三つ巴、三蓋松の三つの社紋を「三社紋」といって祭具は元より各種の装飾模様によく用いられています。

くunchiの語源

重陽の節句、菊の節句の九月九日、この九日のくにちが「くunchi」になったと言われています。

諏訪神社では寛永 3 (1626) 年はじめて神楽を奏し湯立神事が行なわれましたが、大祭の最初は寛永 11 (1634) 年でした。この時の社地は、まだ現在の玉園山に移る前の円山(現、松ノ森神社)で、(慶安元年・1648・遷宮) 9 月 7 日、遊女高尾・音羽の両人が神前に謡曲小舞を奉納。午後、神輿が御旅所に渡御され、8 日が大祭で、御旅所で湯立神事が執行され、9 日無事神輿は還御されました。



羽織型くunchi手拭張り混屏風

昭和 60 (1985) 年頃 吉村愛子氏寄贈

手ぬぐい

手ぬぐいの図柄は、各踊町が町や出し物にちなみ、趣向をこらして、作成しています。

その使い方は、鉢巻、踊馬場での撒物、出場者、庭先でいただいた御花に対してのおかえしの御礼などにも添えられ、多目的に活用されます。最近では、マスクなどもつくられています。



鉢巻・撒物に使用

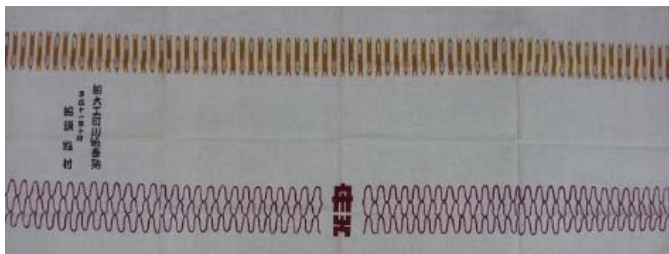
今年の踊町
だった
神清会の
皆さん方の
手ぬぐい



桶屋町



呈上・御礼札



船大工町 平成 11 年



花御礼



本石灰町 平成 4 年



栄町 平成 18 年



万屋町



丸山町 平成 25 年